

令和3年度 第3回学校運営協議会

今年度3回目の学校運営協議会を1月26日（水）に開催しました。



【話し合われたこと】

- 1 令和3年11月から令和4年1月までの学校運営の総括及び令和3年度学校運営自己評価について

【校長・教頭より説明後、質疑応答】

委員： 登下校関係は●が多いが、よく見ると課題というより要望だと思う。この中から重要と思われるものをピックアップして煮詰めればいいのではないか。

教頭： アンケート結果、保護者の声を全てピックアップした。重要と思われることを今後検討していきたい。

委員長： 学校で解決できないものについて、解決に向け対応策を考えていかなければと考えるが、難しさを感じる。

校長： 前回の協議会で出された「新型コロナウイルスと子どもたちの睡眠障害との関係」について、5年生以上の子どもたちに調査を行った結果、コロナ禍と睡眠の問題には関連は見られなかった。コロナによるストレスよりも、ゲームの使用時間が睡眠に影響しており、多くの子どもたちがゲーム障害になっていないか心配される。

委員長： スマホ等の利用で夜遅くなることも多いのではないか。

委員： 本人の性格も多少影響しているとも思われる。

委員： 実際授業中、寝ている生徒はいるのか。

校長： 寝ている児童生徒がいた場合は声をかけ、様子を聞き、児童生徒に合った指導を行っている。

委員： スマホにフィルタリングなどの制限をかけられるようになっていられると思われるが実際は夜遅くまで使っているのが現状だと思う。

委員： 「ゆとり」のポイントが上がっていると思われるが、先生方の仕事量は減っていないと思われる。実際はどうか

教頭： 仕事はなかなか減らないが、軽重をつけて行っている。今年度は月に1回程度4時間授業にして研修などを行っている。他校では、小中連携で月1回情報交換を行っているが、本校では普段からそのような情報交換を行っているので新たな会議はない。指導力向上に関する研修が中心である。

校長： 会議を精選し、職員会議を2か月に1回にしたり、生徒指導の情報は集まらなくてもパソコン上で把握できるようにしたりするなどの工夫をしている。

委員： 教員の数が増えないと働き方改革につながらないのではないか。

教頭： 皆さんのお力をお借りしながら進めたい。教員数が増えれば、より児童生徒へ

指導できる時間が増え、働き方改革につながると考える。

委員： 当地区の子どもは「自分には自信がある」という自己肯定感が低いのではないか。将来に夢を持っているが△である。将来苦しむと思うので、何とかならないかと考えることがある。

教頭： 自己肯定感については、担任が何とか高めるよう、自分の良さに気づかせたり友達が見つけた仲間の良さなどの声をもとに指導したりしている。

校長： 欧米では自己アピールするが日本は自己アピールをするよりは自己を控えめに話すなどの謙虚さがある。高校入試の面接練習をしていると短所の方を多く答える生徒がいる。長所を見つけるよう話している。

委員： 学校評価の成果の数値を見ると、低い点数のところを上げるためにこれからどのようなことを行っていくのかを聞いてみたい。そこを聞き、これから協議会がどのような関わっていったらいいかを考えたい。また、集落に祭りがあっても子どもたちの関わりが少ない。コロナ禍になってなかなか協力が得られなくなっている。今のうちから手を打っていききたい。協議会としても協力していききたい。

校長： 月1回は「ゆとりの日」を設けるように言われているが、もっと回数を増やすようにしている。例えば職員会議の回数を減らしたり時間は60分で終わるようにしたりしている。今後は更に工夫していく必要がある。いろいろなものを制限しているので、数値が低いですが、今年はいろいろと関わっている。地域の行事を学校で集約し一覧にして、お祭りがある日は部活動よりお祭り優先ということ子どもたちに伝えていきたい。

委員： 祭りをしても子どもたちがなかなか集まらない。顔が分からなくなっている。どこの集落も同じと思われるが、地域の大人との交流が減るのが心配。地域の祭り一覧表のようなものを作り配布していただくとありがたい。協議会としてもできることは協力していききたい。

2 令和4年度学校経営方針案について

【校長より説明後、質疑応答】

校長： 来年度の経営方針は今年度のものからあまり変更をしていない。年度ごとの積み上げが大切だと考えているからである。

委員： 放課後児童クラブでは、下校後、宿題指導をしているが、理科や社会の宿題が分からない時がある。「教科書で調べたらどうかな。」と聞くと、「教科書は学校にある。」と言われる。教科書の持ち帰りはどうなっているのか。

校長： 必要な時に持ち帰りをしている。

教頭： 子どもたちが常に重いものを持ち運んでいると側弯症になりやすいというデータもあることから、カバンの軽量化を考えた。

校長： プレスタで計画を立て、計画に従って教科書を持ち帰るようになれば負担が少なく力をつけられると思われる。

委員： 自分が中学生の頃、部活動対抗の競技があった。所属以外の部活動に参加する

というルールだった。自分はサッカー部だったので、それに出られず柔道に出た。このように、他の競技に興味を持たせることも大切と考える。

委員長： 他の部活動を体験させることはいいと考える。県のドリームキッズの体験会があるが最上地区内の参加者が少ない。いろいろな種目を体験するのはいいことなので、学校でも進めてほしい。

校長： 児童の下校にも関わってくるので、それがクリアできれば体験させてもいいと考える。

委員： 校長の方針案は非常にいい。ただ、GIGAスクールのことがあまり記載されていないので、タブレットの活用について少し入れてほしい。また、学習の方法やノートのとり方を指導の重点にしているのはいいことなので、これらも進めてほしい。

校長： ICTの活用は他校より進んでいると思われる。子どもたちにどのように指導していくか細部にわたって常に教頭を中心に話し合いを行っている。これからも検討していきたい。子どもたちが互いに活用の仕方などを紹介し合えばいいなと考えている。

委員： ある学校の生徒に学力が高いのはなぜかと聞いたら、「一つの公式を覚えたら問題が分かる。」と言っていた。やり方を教えていただければ、力をつけることにつながると思われる。勉強の仕方を教えてほしい。

3 運営委員から

委員： 方針案についてだが、目標とする就職先を決めることをさせてほしい。目標を定めると一日が違ってくる。他の委員からもあったが、教科書を持ち帰る子は学力が高いと思っている。会社もSDGsを入れなければならなくなっている。方針にSDGsのことも入れてほしい。校長が立哨しているのはすごい。地道な努力が大切。生徒にも伝えたい。

副校長： 今の時代は夢を持たない・目標を持たない生徒が多く残念。夢を持たせる体験をさせてほしいが、コロナ禍で難しいと思われる。そこで、子どもたちがいろいろなことを感じる活動をお願いしたい。

委員： コロナの影響を子どもたちにあまりかけたくない。学校の思い出をたくさん持てるようにあげたい。人間の血が通った感動を与えられるようにもしていきたい。協議会の皆さんも子どもたちのためと言えれば力をかしてくれるはず。校長の方針を受け、一緒に取り組んでいきたい。

委員： 児童クラブに通っている子どもたちについて先生方と話してみたいが、時間がなく難しいと感じている。来年度は先生方と話し合い連携をとっていきたい。

委員： いつも読み聞かせで協力をいただき感謝している。アンケート結果を見てもそんなに悪くないと思われる。方針もあまり変えないでじっくりと取り組んでいくことはいいと考える。モデルとなれるように今後期待している。

委員： 地域とのつながりが薄い。これは親の責任と考える。自分のことが中心となる

ので、関わりが薄くなっている。地域の楽しさを伝えるためにも頑張っていかなければと考えた。子どもが関わることの難しさを実感する。あいさつ運動で子どもの顔を見ると様子が分かるようになってきた。これからも協力していきたい。

委員： 学校の中で、レクリエーションも必要。例えば紙芝居。今の時代、紙芝居を知っている子は少ない。紙芝居は楽しいのでそれを伝えたい。私自身、子どもの頃にすごく引き付けられた思い出がある。日本昔話などはとてもいいので、心豊かな生徒を育てるためにもレクリエーションを行ってほしい。

委員： 暗くて子どもたちは道を間違えてしまうことがあるのではないかと心配だ。協働員として防災の日や総合の学習などで関わらせていただき、活動が楽しみだった。あいさつ運動では元気をもらっている。防災の日が市報に載ったが、保護者でもある消防団員の方々がこんなに関わってくれていたのだと感じた。子どもたちも誇りに思っているということが分かる。地域に関われる大人になりたいと答えている生徒が多く頼もしいと感じた。サポートを通して地域・生徒とつながり、これからも協力していきたい。協働本部のことを方針に載せていただいた。本部の活動が地域づくりや生徒の学びの保障につながっていくと思うし、先生方の働き方改革にもつながると考える。今後はより一層参加から参画へつなげていきたい。

委員長： 段取り八分と昔から言われるが段取りをがんばってもらいたい。箱根駅伝で優勝した青山学院大学原監督が「選手の自律」について話していた。一人一人が自律を意識していくことでチームが強くなってきたのだと実感した。協議会としても協力していきたい。

市教委： 市内もコロナの感染が増えてきた。感染が広がれば施設使用の状況が変わってくる。学校ができること、地域ができることが増えるよう社会教育課としても取り組んでいくので、これからも御協力をお願いしたい。